

Hello

2003

1

No.230

friends

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ 6階 045-896-2626



特集

地域通貨

ゲゼル研究会

<http://www.grsj.org>

地域通貨に関する理論的な情報が充実しています



©くりやまエコマネー研究会

国際決済銀行の統計によれば1日あたりの為替取引額は約150兆円。このうち貿易の決済手段として取引される貨幣は、僅か6兆円に過ぎない。残りは、すべて投資・投機を目的とするものである。金融の自由化と情報通信手段の発達によって、コンピュータネット上を疾駆する投機マネーが、実体経済と乖離を始めている。

変動相場制への移行後、急激なペソ安に襲われたアルゼンチンでは、金融システムが崩壊し、失業率が25%を超えられている。こうした中、600万人を超えるアルゼンチンの人々が、生きるための手段として地域通貨を使っている。子守りや散髪、日用品の購入などに地域通貨を使用し、地域内で通貨を循環させることで生活防衛をはかっているのである。

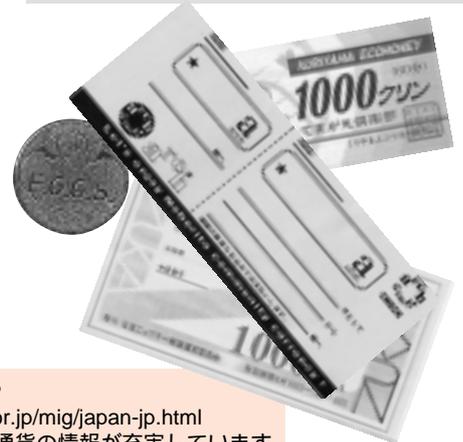
地域通貨は、経済のグローバル化に対抗するカウンター・メディアとしての役割のほか、特定地域内での経済の活性化やコミュニティの再生などの目的で発行されている。本特集では、神奈川県内で始まっている地域通貨の試みの紹介を通じて、コミュニティを再生し地域循環型社会を形成する道具としての地域通貨の可能性を探りたい。

タイムダラー

ネットワークジャパン

<http://www.timedollar.or.jp>

日本のタイムダラーの情報が載っています



エコマネーネットワーク

<http://www.ecomoney.net/ecoHP/top.html>

エコマネーの総合的な情報が載っています

西部忠さんのHP

<http://www.econ.hokudai.ac.jp/nishibe/LETS> についての情報が充実しています

広田裕之さんのHP

<http://www3.plala.or.jp/mig/japan-jp.html>

海外の様々な地域通貨の情報が充実しています

「地域通貨」って どんなお金？



1999年にTV番組『エンデの遺言』（注1）が放送されてから3年。2002年夏、日本における地域通貨の先進地、北海道栗山町で『第一回地域通貨国際会議』が開催された。EUの通貨単位ユーロの設計者であるベルナルド・リエター氏（注2）によると、1985年に2つの地域で始まった地域通貨は、現在、4,000を超える地域で利用されているという。日本でも200近い地域で取り組みが始まっている地域通貨とは、一体どのようなものなのだろう。

通貨と言うと、まずは、日本における円、アメリカにおけるドル、ヨーロッパにおけるユーロなどを思い浮かべる人が多いだろう。これらは世界経済システムの中で流通しているグローバル通貨で、これに対し、ある特定の地域でだけ流通する通貨を地域通貨と言う。この2つの通貨の違いは、流通する地域の違いだけではなく、もっと根本的な機能面の違いがある。

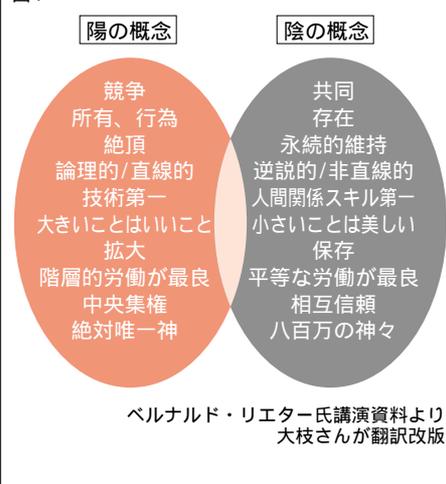
ここで、普段何気なく使っている（グローバル）通貨の機能について、振り返ってみよう。本来通貨とは、モノやサービスを必要とする人と提供できる人が価値を評価し、それらを交換するための媒体手段としてスタートした。その後、「利子」という仕組みが付加されたことから貯蓄手段としての機能が加わり、さらに最近では、貨幣が貨幣を生む投機性という機能が加わっている。今日では、実際にモノをやりとりするための手段としてよりも、後者の機能として流通する貨幣のほうが多くなっている。お金として手渡しされるよりも、銀行口座やコンピュータシステムの中を巡る、紙幣と言う実態を持たない数字のほうが、はるかに大きいのである。

これに比べ、地域通貨は、単に使われる地域が限られていると言うだけではなく、通貨本来の役割であった、モノやサービスを媒介する機能だけを持っている。地域通貨の価値は、必ずモノやサービスによって保証されている。こうした特徴から、真に生活者が必要なモノであれば、アンパイド・ワークと呼ばれる市場経済的には評価されにくい行為も、地域通貨の利用対象となりうるのである。また、地域通貨には、利子による増殖はなく、時間の経過による減価を組み込んだり、一定期間でのリセット機能を持つ地域通貨システムもある。グローバル通貨のように貯めておいても利益を生むことはなく、

早く使うことによってメリットが得られるようになっている。地域通貨はモノやサービスに密着した通貨であるから、頻りに使うことで、モノとサービスの流通が加速し、結果として顔の見える人間関係が創出されるように設計されているのである。

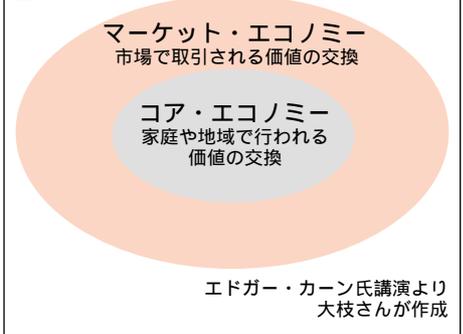
上記のリエター氏は、このようなグローバル通貨と地域通貨の関係を、「陰と陽」の経済という図式で理解することができるという（図1）。「陰の経済」と「陽の経済」、それぞれは独立して存在する訳ではなく、並立的・補完的に存在することで、20世紀の人間社会が失ってしまったバランスを取り戻す事ができる。グローバル通貨と地域通貨、この2つが補完的に流通することで、世界が持つ多様な価値を多様に評価する「地球社会」が可能となる。地域通貨は、20世紀の代償として、我々が抱えている多くの社会問題に一つの解法を与えているのである。

図1



ところで、「エコノミー」と言う言葉の語源は、オイコノミアというギリシア語であると言われている。オイコノミアは「家政」「家計」を意味する言葉である。タイムダラーの創始者であるエドガー・カーン氏は、市場経済に翻弄され機能を失ってしまった「オイコノミア」に「コア・エコノミー」と名付け、この「コア・エコノミー」を機能させるためには地域通貨の流通がふさわしいと言う（図2）。人々の暮らしの中で本当に必要な価値を、生活の場面場面で流通させていく「コア・エコノミー」が健全に機能しなければ、現在問題とされている経済的な問題を根本的に乗り越えることはできないのではないだろうか。カーン氏は、「役に立たない人間はいない」と断言する。人が役に立つかどうかを計る尺度は、さまざまな評価基準があって良いはずである。地域通貨はその一つの手法を提供する。

図2



日本では、江戸時代に藩札という一種の地域通貨があり、その藩の中だけでモノやサービスを流通させていた。世界的に見ても、古くはエジプト王朝にもあったと言われ、中世ヨーロッパで地域通貨が流通していた頃の人々は、現代人よりも体格も良く豊かな暮らしをしていたとも言われている。エジプト王朝や中世ヨーロッパが築いてきた建造物が、21世紀の今日でも立派に残っているのは、その豊かな暮らしの表れかもしれない。

今、社会は成長から成熟へと方向転換しようとしている。成長するために切り捨てて来たものを取り戻し、単一価値では支えられない人々の生活のためのセーフティネットとしての役割が、地域通貨にあると言えないだろうか。

コミュニティ・ファシリテーター
大枝 奈美

（注1）NHKのBS1で1999年5月4日に放送。2000年2月1日『エンデの遺言～根源からお金を問うこと』として単行本が出版された。（注2）リエター氏は、『マネー崩壊～新しいコミュニティ通貨の誕生』（小林一紀他訳、日本経済評論社、2000年発行）の著者。

「地域通貨」入門図書

『地域通貨を知ろう』（2002）、西部忠著、岩波ブックレットNO.576、480円

『だれでもわかる地域通貨入門 - 未来をひらく希望のお金』（2000）、森野栄一監修/あべよしひろ・泉留維著、北斗出版、1,600円

『あたたかいお金「エコマネー」』（2001）、加藤敏春著、日本教文社、1,238円

『エンデの遺言：根元からお金を問うこと』（2000）、河邑厚徳+グループ現代共著、NHK出版、1,500円

『マネー崩壊 - 新しいコミュニティ通貨の誕生 -』（2000）、ベルナルド・リエター著、日本経済評論社、2,300円

『この世の中に役に立たない人はいない - 信頼の地域通貨 タイムダラーの挑戦 -』（2002）、エドガー・S・カーン著、創風社出版、2,000円

藤沢市善行地区で始まった地域通貨「善」の試み

善行エコマネー研究会は、1999年12月、「善行くらし・まちづくり会議」のメンバーがエコマネーネットワークの中山事務局長（当時）と出会ったことがきっかけとなり、2000年10月に発足した。同研究会では、コミュニティの再生を目的に、2001年7月から地域通貨の第1次実験をスタートさせた。

善行地区で使用される地域通貨は紙幣型で、百善・五百善・千善の三種類がある。地域通貨の利用実験に参加するには、自分のできる地域サービスを「お互い様メニュー」に書き込み、1,000円を添えて事務局に会員登録して、一万善を受け取る。会員は、「お互いさまメニュー」の中から自分に必要なサービスを選び、その対価として善を支払う仕組みだ。サービスに対する支払い基準は、特に設けていない。

地域通貨の運営グループ「お互い様ネットワーク善」では、実験を始めるにあたり、参加者に地域通貨のイメージをもってもらう目的で、「お試し会」の場を用意した。会員同士の交流会の中で、実際に地域通貨を使ってみるのだ。この交流会は好評で、その後も、月1回の

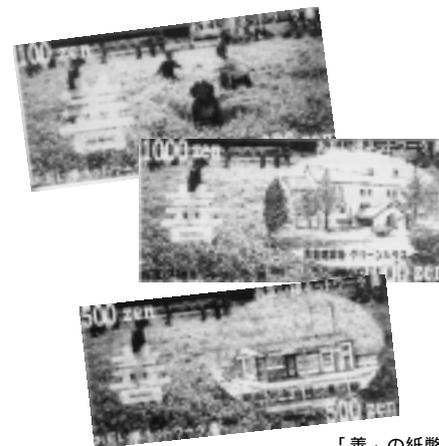
ペースで開催された。宮田代表によれば、「地域通貨は、『お互いさまメニュー』に基づくサービス交換よりも、交流会の場で利用されることが多い」という。顔の見える関係がないところでは、サービスの交換が起きにくいらしい。交流会という仕掛けが功を奏し、第1次実験のスタート時に44名だった会員は、約半年後の終了時には、83名に増加した。

第1次実験で利用された主なサービスは、パソコン指導、車の送迎、刃物研ぎ、ビデオのダビングなど。「お互い様ネットワーク善」事務局をサポートする人が現れ、推進委員会も設立された。一方、「お互いさまメニュー」にリスト化されている「買い物手伝い」や「子守り」などのサービスは、全く利用がなかった。参加者が、健康なシニア層に片寄り、介護を要する高齢者や子育て中の若い世代の参加がなかったからだ。また、「自分がサービスできる内容が無く、いつもしてもらえばかりで心苦しい」と、参加をやめてしまった人もいる。第1次実験の課題は、会員一人ひとりに潜在している様々な能力を掘り起こすことと、多様な経験を持つ幅広い年代層に通貨

を利用してもらうこと、の二点であった。

2002年4月に始まった第2次実験には60名が参加し、この中から新しい活動メニューが生まれている。善行地区に住む中国人を先生とする中国語講座が始まったのである。今、中国語講座の関係者の間で、日中餃子対決というイベントが企画されている。

地域通貨は、地域に暮らす多様な人々が共生するためのまちづくりにも役立つことが見えてきた。「お互い様ネットワーク善」では、2002年11月に終了した第2次実験の集計結果をもとに、2003年2月から第3次実験を開始するという。善行地区で始まった地域通貨の試みは、地域の中に、人と人の顔の見える関係を創り出し始めている。（K）



「善」の紙幣

レインボーリング

「場」と「人」と「地域」と「NPO」をつなぐメディア

地域通貨レインボーリング創始者の安部芳裕さんは、かねてから、お金のシステムが社会や環境に大きな影響を与えていると感じていた。そんな時、知人のすすめもあり、TV番組『エンデの遺言』を見た。それがレインボーリング（以下RRと表記）誕生の大きなきっかけだ。

RRを始めるに際し、安部さんは、仲間を広げるため、RRのルールをホームページで公開した。その頃『エンデの遺言』は評判になっており、地域通貨への関心も高まっていたので、いくつかの市民グループから、このルールを使わせて欲しいという話がきた。また、ゲゼルメーリングリスト（注1）に参加していた人たちもRRに入ってくれた。「BeGood Cafe」（注2）で、RRが使われるようになったのも会員増につながった。現在、RRの会員は約500名となっている。

こうして広がったRRは、バランスシートと呼ばれる通帳を使って、3つのステップを踏みながら取引を行う。



RRバランスシート

RR取引方法

〔STEP1〕会員は、ホームページや会報紙に登録された内容をもとに価格を決め取引。

〔STEP2〕両者がバランスシートに記入。

〔STEP3〕バランスシートを取り替え、内容を確認。自分のサインとIDナンバーを記入。取引成立

遠方の会員との取引は、各自で通帳に記入し、両方から事務局に連絡があれば取引成立としている。事務局は3ヶ月に一度、会員の取引内容を集計している。

取引について、RRの会員は、会員の9

割程度が参加しているメーリングリストを使って、活発に情報交換している。RRにおける地域は、目的や関心を共有した会員が構成するバーチャル・コミュニティ上にも存在しているのだ。

RRの取引内容は、社会サービスの交換から中古品など多岐にわたる。「ようやく会員の様々なニーズに応えられるものがそろってきた」と言う安部さんは、RRの未来をこう語った。

「現在、紙幣型の地域通貨を検討中です。それをNPOに融資し、事業運営に役立ててもらいたいと思っています。地域通貨は利子を生まない通貨だからNPOの負担になりにくいのです。また、RRをいろいろな地域通貨と交換できる場にしようと考えています。地域通貨は、地域に根ざしているけど、現実として、地域だけで生活が完結している人は少ないですから...。」

NPOと地域の現状を踏まえた上での計画だ。これからRRはその名のごとく、いろいろな関係をつなぐ輪として動き始めようとしている。（F）

（注1）ゲゼルメーリングリスト
経済評論家の森野栄一氏が代表を勤めるゲゼル研究会主催のメーリングリスト。詳細はホームページ参照。

（注2）「BeGood Cafe」
原宿表参道の会場を始めとして、各地で開催されているカフェイベント

ICカードを利用した 大和市の実験通貨「ラブ」

インターネットを活用した市民参加のまちづくりに取り組んできた大和市。2001年度には、経済産業省の「ICカードの普及等によるIT装備都市研究事業」に採択され、ICカードを利用した「LOVES・ラブス」(LOcal Value Exchange System 地域価値交換システム)という独自の仕組みをスタートさせた。大和市民がICチップ内蔵の市民カードを使って、公共施設や学習講座の予約など行政サービスを容易に利用できると同時に、個人の「知識」、リサイクル・リユースの対象となる「財産」、ボランティアで提供する「役務」を市民が相互に共有し、循環させるシステムだ。この中で利用している地域通貨が「ラブ」である。

市民カード(ICカード)には、最初に10,000ラブが振り込まれている。このラブで、人づきあいをつくり、モノのやりとりができる。「ラブス」の「お手伝いします」のウェブページに「1時間100ラブもらってパソコンを教えます」と書き込んでおいて、習いたい人がいれば、3時間教えて300ラブがもらえる。中古の電気ポットがほしければ、「あげます」のページに載っている電気ポットを申し込み、お礼の気持ちに1,000ラブを払う仕組みだ。大和市内の商店も「ラブス」に参加しており、商品代金の5%や10%をラブで支払えるようにしたり、商品を購入した客にラブ

を進呈するお店も出てきた。使うことに意味のある交換の道具なので、いくらラブを使っても、もらっても、年末にはリセットして10,000ラブに戻る。

現在、大和市人口の45%の約9万人がこのカードを所有し、カードリーダーは、市内約1,000ヶ所に設置されている。ICカードは大和市民しか持てないが、昨年8月には紙の補助券「ラブ券」も発行され、誰でも、機械がなくてもラブを使えるようになった。

この実験は、スタートしたばかり。まだまだラブの利用は少ないのが現状だ。確かに、インターネット情報だけをたよりに、人に何かを頼んだり、頼まれたりするのには難しい。「地域通貨は、まずコミュニティがあって、それに乗っかるもの。行政単位で市が導入しただけでは、すぐには動き出さない」と「ラブス・どこココミサポートセンター」代表の渡辺敦さんは言う。行政設置の「ラブス」だが、民間の応援団である「ラブス・どこココミサポートセンター」ができて、商店街への支援、ラブの紹介や普及のための仕組みづくりやイベント企画、サポーター育成などを行っている。サポートセンターでは「地域通貨という道具を大和市の多くの人たちに理解してもらうこと」を第一の目標においている。渡辺さんは「ラブスは、パスワードを使って仲間同士だけでも

やりとりできる。ラブスの中に、小さな地域のグループや目的別のグループで多様な交換システムがいくつもできて、それが循環型社会へつながっていけばいい」と説明してくれた。

地域通貨が具体的にどのような役立つかを知ってもらいたいと、サポートセンターでは、「地産地消」をキーワードに、安心して食べられ、しかもおいしい野菜を生産・流通・循環させる新しい仕組み「LOVES元気やさしいネット・やまと」を準備している。ラブスを利用して大和周辺で有機農業を行っている生産者と大和市の消費者を結び、「やさしいラブ券」を通して、野菜の購入や、農繁期の手伝いや堆肥の提供のやりとりをできるようにするそうだ。農業を手伝うことで得たラブ券で、知り合いになった農家がつくる安全な野菜が買える。それが地域の農業を支え、持続可能な「食」環境づくりにつながっていく。「元気やさしいネット」では、農産物の「ついで輸送」をしってくれる人(謝礼はラブ)も現在募集中。2003年4月からスタートするそうで、楽しみだ。

(Y)



ICチップ内蔵の大和市民カード

県内地域通貨一覧

2002年12月1日現在

地域	運営主体	単位	形態	アクセス先
川崎市川崎区	川崎区エコマネー福ふくクラブ	福	紙幣	川崎市川崎区役所 TEL: 044-201-3136
川崎市	アーチクラブ	アーチ	小切手	http://www.noborito.net/arch/ E-mail: arch@noborito.net
藤沢市善行	善行エコマネー研究会	善	紙幣	http://www6.ocn.ne.jp/%7Ezennet/ E-mail: zen-net@alto.ocn.ne.jp
大和市	クラブママーズ	クラ	通帳	http://members.jcom.home.ne.jp/ellpa/ E-mail: ellpa@jcom.home.ne.jp
大和市	大和市役所	ラブ	ICカード、補助券	http://loves.city.yamato.kanagawa.jp/yamato/
	ラブス・どこココミサポートセンター			http://members.jcom.home.ne.jp/yamato-loves/ E-mail: yamato-loves@jcom.home.ne.jp
開成町	開成町エコマネー研究会	ハート	紙幣	http://www.town.kaisei.kanagawa.jp/echomony.htm E-mail: info@town.kaisei.kanagawa.jp
全国	レインボーリング	リング	通帳	http://www.rainbow-ring.net/ E-mail: info@rainbow-ring.net
全国	ワット友の会	WAT	借用証書	http://www.watsystems.net/index.html

「レインボーリング」と「ワット友の会」の事務局は、いずれも神奈川県内にある。

学校と地域をつなぐ! 2003.2.22 かながわ多文化共生フォーラム

外国人児童生徒の学習支援における学校と地域やNPOとの連携を考えるフォーラムです。学校と地域の連携の先進事例を参考に、県内各地で同様な取組みを始めるための仕組みづくりも模索したいと思います。

日時：2003年2月22日(土)
13:00～16:30

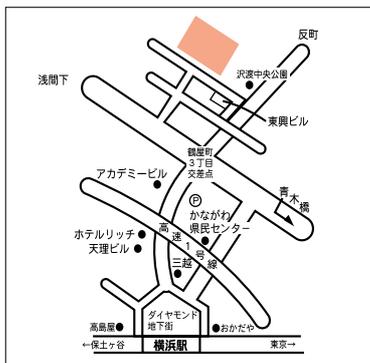
場所：神奈川県社会福祉会館
4階研修室(横浜駅西口より徒歩15分)

定員：90名(申込多数の場合は抽選)
申込締切：2月15日(土)

主催：(財)神奈川県国際交流協会
共催：(財)横浜市国際交流協会
(社福)神奈川県社会福祉協議会

第1部 事例発表

学校のなかでの日本語指導における連携
服部信雄さん(横浜市立いちよう小学校校長)
選択教科「国際」の取り組み
柿本隆夫さん(大和市立下福田中学校)



教科補習における連携

高田文芳さん(横浜市立港中学校)
八木沢直治さん(横浜市国際交流協会)

第2部 パネルディスカッション

パネリスト：～の事例発表者の方々、
沼尾実さん(横浜市教育委員会)、
榎井縁さん(とよなか国際交流協会)
コーディネーター：山脇啓造さん(明治大学)

第1部の事例発表を受けて議論を深めます。はじめに、榎井さんから、行政・学校・地域・第三セクターによる協力体制の仕組みづくりについて、沼尾さんから、「学校がいまからできること」についてお話いただいたあと、自由に討議を進めます。フロアからの積極的な発言も大歓迎です。

申込方法「かながわ多文化共生フォーラム」「地球市民養成講座」「まなびの道具箱」ともに

参加費：無料 申込方法 事業名と参加する回、氏名(ふりがな)、所属(学校名や団体名)、連絡先(電話、FAX、Eメール)をすべて明記して、電話/FAX/Eメールでお申し込みください。ご参加いただけない場合のみ、こちらからご連絡します。
申込先：企画情報課 TEL: 045-896-2896 FAX: 045-896-2945 E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp

地球市民養成講座 B

Slow is beautiful ～もうひとつの生き方～

グローバル化の進展とともに、「もの」や「人」の移動の機会が飛躍的に増したことによって、私たちは、多く情報を得、生活の「豊かさ」と「利便さ」に満ちた生活を送るようになった。

しかし、その一方で、「効率」や「利便性」への追求(economyの世界に生きること)の果てに、人と人の繋がり、生そのものの充実という点で、とても重要なものを喪いつつあるとは言えないだろうか。

世界が「あたりまえ」とし、「良きもの」としてきた、「速さ」や「効率」や「豊かさ」といったさまざまな前提を一度カッコの中に容れてみることに。

この講座では、「スロー」をキーワードとして、現代社会が構造的に含み込んでいる問題、「生きにくさ」の根本に横たわっている問題を見つめ直し、よりよく生きる(ecologyの世界に生きる)ことの意味を考え、21世紀を生きるための「もうひとつの生き方」を探る。

第1回 “slow is beautiful”～ゆっくり生きよう～

日時：2003年2月9日(日)14:00～

場所：あーび 5階映像ホール

辻信一さん(明治学院大学/ナマケモノ倶楽部世話人)

第2回 スローフードのすすめ

日時：2003年2月23日(日)14:00～

場所：あーび 1階ワークショップルーム

小形恵さん(ライフシードキャンペーン NGO スタッフ)

第3回 「地域通貨」という考え方

日時：2003年3月9日(日)14:00～

場所：あーび 1階会議室

森野栄一さん(経済評論家/ゲゼル研究会主宰)

定員：各回とも40名(申込多数の場合は抽選)

申込締切：開催日の1週間前

主催：県立地球市民かながわプラザ

企画実施：(財)神奈川県国際交流協会

第6回地球市民学習リーダーセミナー「まなびの道具箱」

教室をとびだせ! あーび 5階 展示室を
活用した地球市民学習をつくろう

“こどもの国際理解展示室”は、子どもたちが世界の暮らしを体感できる「学び」の広場。タイやネパールに実際に住んでいる家族の家や、実物の生活道具、衣装、楽器などに触れたり、世界中の子どもたちからのビデオレターを見ることで、小学生から大人まで、世界の人々の暮らしや文化を肌で感じながら学ぶことができます。この展示室を活用してどんな「学び」のプログラムがつけられるか、一緒に考えませんか。

日時：2003年3月15日(土)13:00～17:30

場所：あーび 5階 1階会議室

5階こどもの国際理解展示室も利用

内容：1) あーび 5階「学び」に使える素材紹介
2) 学校の学習プログラム事例発表
3) 「地球市民学習」って何だろう?
4) グループワーク

「展示を活用した地球市民学習プログラムづくり」

コーディネーター：山西優二さん(早稲田大学教授)

定員：30名(申込多数の場合は抽選)

申込締切：2003年2月28日(金)

主催：県立地球市民かながわプラザ

企画実施：(財)神奈川県国際交流協会

第1回まなびの道具箱

「時事問題を教室へ」講演録ができました!

A4版24ページ 300円(協会会員は無料)

ご希望の方は、送料との合計額460円を郵便振替でお送りください。

振替口座 00280-4-49894 財団法人神奈川県国際交流協会

※「通信欄」に「『時事問題を教室へ』1冊希望」と明記してください。

はじめまして阿久津です

11月よりJICA国際協力推進員として神奈川県国際交流協会で活動している阿久津瑠美子です。国際協力推進員とは、JICA（国際協力事業団）が地域住民への情報提供や地域との連携を推進するため、地方自治体の国際交流協会などに配置しているものです。JICAは青年海外協力隊をはじめとして、20～69歳までの方々が参加できる4つのボランティア派遣事業を行っています。関心のある方は、ご相談ください。また、JICAのボランティアOB/OGを講師として派遣する「サーモン・キャンペーン」を実施していますので、学校や勉強会で国際協力や開発途上国について理解を深めるためにご活用ください。その他のJICA事業についても気軽にお問い合わせください。皆様が一番身近なJICA窓口になれるよう活動していきますので、よろしくお願いたします。



ことばと文化セミナー・料理文化講座

「韓国・朝鮮の冬の家庭料理」

皆さんのリクエストにお応えして「韓国・朝鮮の家庭料理」の第2弾です。

日時： 1月30日、2月6日、2月13日の毎週木曜日の10:00～13:00
(3回連続講座となります)

場所： あーぢ 355 1階・料理室

定員： 15名(先着申込順、3回連続参加が条件となります)

講師： 権 五順(クォン オスン)さん

韓国の大学で栄養学を学び、栄養士と調理師の免許を取得後、昨年の7月まで東京の韓国宮廷料理店でシェフを勤めていました。

プログラム：料理を作りながら韓国の食文化について理解を深めます

1/30 韓国のお正月料理 2/6 冬はやっぱり鍋料理 2/13 ミネラルたっぷりご飯

受講料： 8,000円(消費税と食材費別、全3回)
*食材費3回分は、2,500円前後の予定。

問合せ・申込先： 国際協力課 TEL: 045-896-2964 E-mail: minsai@k-i-a.or.jp

ユネスコ・アジア太平洋写真展

- 私たちの装い -

「2001ユネスコ・アジア太平洋写真コンテスト」は「私たちの装い」をテーマに行われ、プロ・アマを問わず、27カ国から7,648点の応募作品がありました。今回の写真展ではその中から入選作品100点を紹介します。日常生活で身につけている服装や、祭りなどの特別な行事に着的衣装、帽子・化粧・入れ墨などが、人々のいきいきとした表情とともに、そこに住む人ならではの視点から写しだされています。

日時：2003年1月25日(土)～2月16日(日)
9:00～17:00

(1月27日、2月3日、10日は休館)

場所：あーぢ 355 3階 企画展示室
入場無料

主催：地球市民かながわプラザ

(財)ユネスコ・アジア文化センター

ビデオコーナー・体験コーナー：アジア・太平洋地域の文化や芸術等を映像で紹介。また、アジア・太平洋地域の民族衣装や資料などを自由に試着、閲覧できます。



地球市民かながわプラザは、この写真展を通して地域の方々や未来を担う子どもたちが、アジア・太平洋地域にある多様な文化・伝統・宗教に触れて国際理解をさらに深め、「地球市民」としての意識を培うきっかけになればと思っています。皆様のご来場をお待ちしています。

ご協力ありがとうございました
草の根国際協力応援バザー

神奈川県国際交流協会では、去る12月1日、かながわ国際協力基金への寄付募集を目的として「草の根国際協力応援バザー」を開催しました。

あーぢ 355で5年目を迎えたこの催しには、今年も多くの方々から物品の寄付が寄せられ、当日は、約250人の来場者で賑わいました。

今回の売上げ290,290円は、すべて「かながわ国際協力基金」へ積み立て、NGOが行う国際協力活動を支援するために、有効に使わせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切にした「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。

年会費：個人 3,000円から
団体 10,000円から

*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営するあーぢ 355内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00～20:00
(土曜・日曜・祝日 9:00～17:00)

映像ライブラリー 9:00～17:00

*月曜日は休館日です。
(ただし、祝日は開館しています。)



Hello friends

2003年1月9日発行
第230号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会
〒247-0007
横浜市栄区小菅ケ谷一丁目2番1号
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階
045-896-2626 FAX.045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: kikaku@k-i-a.or.jp
印刷 株式会社 佐藤印刷所

レインボーリングの取材で訪ねたアリエルダイナーの店内は、市民活動の打合せにも使える機能的なレイアウトだった。環境に配慮した商品も販売していた。地域通貨アーチで飲食代の10%を支払うことができ、金曜夜のDJナイト他いろいろイベントもあり、様々な出会いがそこにある。集い、語り合おう、今ここからできることを考える場からグローバル化によって見落とされている問題をすくい上げる様々なツールや概念が生まれている。

(企画情報課 藤分治紀)

サービスを受けるばかりが負担にならず、地域通貨のコミュニティから離れていった方の話が残った。一人の役に立ちたい」とは誰もが思っている。でも、「役立つ」って、本当にいる私たちが想像し、考えていることだけ振り起こすと同時に、何を「役」として受け止めるのかの問い直し、掘り起こすことも必要なのだろう。それは本当にわくわくする作業だ。取材を通して地域通貨のさまざまな可能性を感じた。

(企画情報課 山内涼子)

ハローフレンドズで地域通貨の特集を組みたいと思っから、一年半経ってしまっ。元来ナマケモノの僕は、何をやるのも腰が重い。でも、今回は「スロウイズ」ビュティティフルの精神が功を奏したように思う。おそろしく、1年半前にこの特集をやった。今、今号では、神奈川県内に出ている知識の受け売りに終始していたことだろう。スロウイズという名称の地域通貨が発行されていく。スピードと効率を至上価値としている。スロウイズは、スロウな体質に合っているのかもしれない。

(企画情報課 小山輝一郎)

*キャラバン・サライとはかつてシルクロードにあった隊商宿。文化・情報の中継点となりました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。今回の機関紙の発行は3月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)